

小杉健郎さんを送る

井上 一 (宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部)

e-mail: inoue.hajime@isas.jaxa.jp

JAXA 宇宙科学研究本部教授・研究総主幹 小杉健郎さんは、平成 18 年 11 月 26 日 12 時 58 分、脳梗塞により急逝されました。ここに、長年の友人として、また、JAXA 宇宙科学研究本部の同僚としてお別れの言葉を述べさせていただきます。

小杉さんは、昭和 24 年 1 月 6 日にお生まれになりました。そして、昭和 42 年に愛知県時習館高校を卒業の後、東京大学に入学されました。私が、小杉さんと、知り合ったのはそれぞれ大学 4 年の時、今から 35 年ほど前になります。物理の実験で互いに都合をつけあって、交代でレポートを書いたりしたことを思い出します。その後、ともに東大大学院天文学専攻に進みましたが、小杉さんは太陽という間近の天体を実証的に研究しようとし、私はこの宇宙を作っている基本法則を大きくつかみたいと夢みたくて考えていました。そして、相前後して、小杉さんは当時の東京大学東京天文台に、私は当時の東京大学宇宙航空研究所に助手として就職しました。小杉さんは、その後、東京大学理学部天文学教育研究センター助教授、国立天文台電波天文学研究系教授へと昇進されました。その間、野辺山の太陽電波干渉計の設営に尽力され、科学的成果を上げることに大きな貢献をされました。さらに、当時の宇宙航空研究所にも足しげく通われ、太陽観測衛星「ようこう」の中心メンバーとしても活躍されました。そして、小杉さんは、1998 年、この 9 月 23 日に「ひので」衛星として文字どおり日の目を見た Solar-B 衛星計画が立ち上がる時に、宇宙研に移られました。小杉さんは、鋭い視点で、人の発言や行いに改めるべきことがあるとお考えになると、非常にきびしく指摘されましたが、その分自分にもきびしく、細かなことにも気を配って非常にしっかりものごとを進められました。「ひので」についても、プロジェクトマネージャーとして、まさに心



略歴

- 1949 年 1 月 6 日生
- 1972 年 3 月 東京大学理学部天文学科卒
- 1974 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科天文学専門課程修士課程修了
- 1976 年 3 月 東京大学大学院理学系研究科天文学専門課程博士課程中退
- 1976 年 4 月 東京大学東京天文台・助手(野辺山太陽電波観測所)
- 1988 年 7 月 東京大学理学部・助教授(天文学教育研究センター)
- 1992 年 1 月 国立天文台電波天文学研究系・教授
- 1998 年 6 月 宇宙航空研究所惑星研究系・教授
- 1999 年 4 月 宇宙航空研究所共通基礎研究系・教授
- 2003 年 10 月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部・教授
- 2005 年 10 月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部・研究総主幹
- 2006 年 11 月 26 日 逝去(57 歳)

またこの間、日本天文学会評議員
(1996 年 5 月～)
日本天文学会会計理事
(1989 年 5 月～1993 年 5 月)

を務められた。



「ひので」打上げ成功の記者会見で。



野球やテニスも楽しめました。

血を注ぎ、X線や可視光で見事な太陽像が得られる大成功を導かれました。しかし、今思えば、打上げ前のたいへんな苦勞が、肉体的に大きな無理をかけ、とりかえしのつかないことに至ってしまったのかもしれない。まことに痛恨のきわみです。

つい数年前までは、私と小杉さんとは、持ち味



研究会での一コマ。

が違うと考えて、小杉さんは小杉さん、私は私と考えてきました。しかし、宇宙関係の3機関が統合されることになり、統合に向けていろいろな問題を解決していかなければならない中で、昔の学生実験の時のように、小杉さんといっしょに仕事をすることが増えてきました。そして、約1年前に、何かのめぐり合わせで、私が宇宙科学研究本部長に選出され、小杉さんに研究総主幹をお願いして、毎日のように共同して多くの難局に相對するようになりました。そうやって初めて、小杉さんの優れたところが、本当にわかるようになってきました。そうやってきたとき、小杉さんは突然逝ってしまいました。まことに残念でなりません。

小杉さんと私は、生まれた年も月も同じです。し、研究生生活にしる、家庭生活にしる、いろいろな点で同じような人生を歩んできました。今考えるとふしぎな縁で結ばれていたような気がします。これからの人生、小杉さんの分もがんばらなければならないと思います。小杉さん、どうか安らかにお眠り下さい。